

編集後記

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴って、2023年度は対面のイベントも多くなってきました。キャンパスには学生があふれ、以前の賑わいが戻ってきたようにも感じられます。このまま前を向いて進むというのでも良いのですが、新型コロナ禍で得たものと失ったものについて振り返りながら、研究や実践に活かすことができたらと感じています。

14巻は4編の論文と資料、各研究室の研究報告・活動報告が掲載されています。新型コロナ禍では、研究上様々な制限を余儀なくされましたが、それによって心の研究が停滞してしまったというわけではありません。オンライン実験・調査、二次分析研究、メタ分析、オンラインでつながった国際

共同研究、シミュレーションなどと様々な研究方法によって、心理学研究は止まらずに進んできました。掲載された論文や資料とともに活動報告に目を通していただけたらと思います。

本論集に投稿してくださった執筆者の方々、査読者の方々、編集委員の中沢仁教授、松嶋祐子准教授、藤巻るり准教授、実習助手としてとりまとめをしてくださった榎本玲子様、心より感謝申し上げます。また専修大学出版局の相川美紀様には、編集をはじめとして、進行管理など刊行にかかわるさまざまな作業をご担当いただきました。記して感謝の意を表します。

(心理学篇編集主幹 国里愛彦)